

令和４年度第３回大正区区政会議

日 時：令和４年１２月１６日（金）

午後６時３０分～午後８時２６分

場 所：大正区役所４階大正区民ホール

○大津区政企画担当課長

皆さんこんばんは。定刻になりましたので、ただいまから令和４年度第３回大正区区政会議を開催させていただきます。本日は公私何かと御多用の中、御出席をいただき誠にありがとうございます。

本日の司会を務めます区政企画担当課長の天津でございます。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

午後６時３０分現在、区政会議委員定数１３名のうち出席者は９名となっており、委員の２分の１以上の出席がございます。区政会議の運営の基本となる事項に関する条例第７条第５項に基づきまして、本会議は有効に成立しておりますことを御報告申し上げます。

本日の会議につきましても、これまで同様、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施させていただいておりますので、御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、開会に当たりまして、大正区長の古川より御挨拶申し上げます。

○古川区長

皆様、こんばんは。今年度、３回目の区政会議、お越しいたきまして誠にありがとうございます。今年度、いろいろ議論を重ねてまいりましたが、将来ビジョンということで、今日の議題は『大正区将来ビジョン２０２５』という形で、その素案の公示をさせていただいております。また、皆様には事前に御意見も頂戴いたしまして、本当にありがとうございました。

今日はその意見にお答えしつつ、ここでまた生の議論もしていただくという形になっていきまして、ビジョンの取りまとめを年明けには行っていきたいと考えております。

このビジョンは皆様に事前にお示しした資料の中にもありますとおり、区の運営方針、あるいは事業・業務計画書の上位概念として中期的な計画を私どもがお示しし、区政会議の皆様、そして区民の皆様に御意見を頂戴しながら練り上げていくものでございますので、大正区の区政運営の根幹になるものというふうに考えております。今回の計画は、私の任期とか、あるいは大阪・関西万博の期限、いろいろ加味しまして、少し短めの中期計画3か年の計画とさせていただきました。こちらは、やっぱり区長が代わるとそれなりのビジョンを持って着任する方が多いので、区長の任期をイメージしながら策定していくことも必要ではということで、スタッフと議論をした上で、こういう形にさせていただいております。なので、中期の計画でございますので、今お示しした冊子をもってがらりと大正区が一気に変わるというものではないかもしれません。ただ、ここに書いてありますとおり、人口が減りつつあることですか高齢化が進展しているということ等を含めまして、少しずつ対処していく処方箋として書いたつもりでございます。

中身としては、施策を大きな束に4つにまとめて、4つの柱としております。その4つの柱にプラスして、共通の取組として、ICTですとか情報の広報の在り方とか、区役所側のいろんな工夫も併せて提示しております。

本日、実りある議論、そして、私どもの示唆につながるように御意見を頂戴いたしますことを願っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○大津区政企画担当課長

ありがとうございました。

次に、会議の進行につきましては、お手元に配付の資料並びにあらかじめお送りさせていただきました資料を元に進めさせていただきます。各議題に入ります前に、そ

の都度資料の確認をさせていただきますが、事前にお送りさせていただいた資料をお忘れの方がいらっしゃいましたら、予備を御用意しておりますのでお申しつけください。

次に、本日の会議は全て公開とさせていただきます。本日の会議録や撮影させていただきました写真等は、後日、区のホームページ等で公開させていただきますので、御了承ください。

なお、本日はメディアからの取材申入れもあります。メディアによる録音や撮影がありますので、こちらにつきましても御了承ください。

それでは、ここでお忙しい中、オブザーバーとして御参加いただいております皆様を御紹介させていただきます。

小山市議員でございます。

○小山市議員

いつもお世話になっております。よろしくお願いいたします。

○大津区政企画担当課長

なお、金城府議会議員につきましては、ちょっと遅れますということで御連絡をいただいております。なお、出雲市議員、川岡府議会議員、大阪市消防局大正消防署の植松署長、大阪府大正警察署の落署長におかれましては、公務により御欠席と伺っております。

それでは、本日の議事に入らせていただきます。ここからの議事進行につきましては議長をお願いしたいと存じます。

竹村議長、よろしくお願いいたします。

○竹村議長

皆さん、こんばんは。早いもので今年もあと2週間ぐらいとなりました。

それでは、第3回目の議事進行につきましては、着座にて進行させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、早速議事に入らせていただきます。議題１、大正区将来ビジョン２０２５（素案）について、区役所から説明をお願いいたします。

○大津区政企画担当課長

それでは、議題１、大正区将来ビジョン２０２５（素案）について御説明いたします。事前に送付しております書類番号１、大正区将来ビジョン２０２５（素案）と、書類番号２、大正区将来ビジョン２０２５（素案）概要版をお手元に御準備ください。現在の大正区将来ビジョン２０２２が令和４年度で終了するため、令和５年度に新たに大正区将来ビジョン２０２５を策定します。将来ビジョンは大正区のまちづくりの基礎となる計画となりますので、立案段階から区民の意見を把握し、適宜反映させていく必要があります。前回の区政会議では、大正区将来ビジョン２０２５の概要を御説明いたしましたが、詳細な内容を素案として策定しましたので、委員の皆様にご議論いただきたいと考えております。なお、本件に係る事前質問の回答につきましては、書類番号４の１ページから４ページにかけまして書面にて行っていることから、詳細の説明については割愛させていただき、後ほど区の回答に対しての御意見もお伺いしたいと思います。

それでは、まず、将来ビジョン２０２５（素案）について御説明をさせていただきます。それでは、まず、お手元に書類番号２、大正区将来ビジョン２０２５（素案）概要版を御用意ください。前回の区政会議でも御説明をさせていただきました内容とちょっと重複するところもございますが、改めてお聞きいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、概要版の一番下のところを御覧ください。区将来ビジョンとは、区長が大正区の基礎自治に関する責任者である区シティーマネージャー及び大正区の教育行政の責任者である教育委員会事務局区担当教育次長として所管する事務も含めまして、区内の基礎自治行政を総合的に推進していく上で、区役所のめざすべき将来像の実現に向けた施策の方向性等を取りまとめた計画であり、区民の方々に明らかにするもの

でございます。将来像を見据える期間につきましては、各区役所で適宜決定できることとなっており、今回、大正区では古川区長の任期及び大阪・関西万博の開催を見据えまして、令和5年度から令和7年度の3年間としております。また、区将来ビジョンで示された方向性に沿って、年度ごとの施策、事業の取組を明らかにする区運営方針は単年度ごとに作成することとなっており、区長は毎年度の区運営方針に係るPDCAサイクルを通じて、区将来ビジョンを適切な方法で進捗管理することとなっております。区運営方針につきましては、区政会議の運営の基本となる事項に関する条例に基づき、委員の皆様から御意見を求めるものとなっているところでございます。後ほど議題2で出てまいりますので、その際に詳しくは御説明をさせていただきます。また、大正区では将来ビジョン、区運営方針に掲げた施策の達成に向けて、各担当が取り組む事務につきまして単年度ごとに事業・業務計画書というのを策定し、業務の進捗管理を行っているところでございます。なお、令和5年度の事業・業務計画書につきましては、次回の区政会議で議論いただきたいと思いますと思っております。

それでは、内容について御説明をさせていただきます。資料の一番上の部分を御覧ください。まず、大正区が3年後にめざすべき将来像についてでございますが、人や文化が多様性に富み、幅広い世代が支え合いながら共に生きる「ホッとなまち大正」。安全・安心こどもの未来が輝き、愛着を持って住み続けられる持続可能なまちをめざしてまいります。そして、このまちのポテンシャル（潜在価値）を生かし、新たなにぎわいと魅力をつくり出すことにも挑戦いたします。この将来像を3年間で実現するために、資料真ん中にありますとおり、4つの柱を建てて、柱ごとに応じた施策を進めるとともに、その下のほうにありますとおり、4つの柱を支える共通の取組を行ってまいります。4つの柱は左上より順番に、健康で安心して暮らせるまち「大正」、右隣に行きまして、地域で支えあう安全なまち「大正」、左下に行きまして、こどもの未来が輝くまち「大正」、右隣に行きまして、にぎわいと魅力あふれるまち「大正」となっております。そして、その下段に、この4つの柱を支える共通の取組を掲

載しております。4つの柱に応じた施策はどれも非常に大切なものですが、1つずつ代表的な施策を御説明させていただきます。まず、健康で安心して暮らせるまち「大正」についてでございますが、第1回目の区政会議での議題にありまして、区内10地域で日頃の見守り体制の構築を地域と区役所で一緒に進めてまいりたいと思っているところでございます。地域で支え合う安全なまち「大正」につきましては、第2回目の区政会議での議題にありまして、日頃の見守りからいざという時の見守り体制の構築を行ってまいりたいと思っております。具体的には地域と区役所が協働して個別避難計画について、既に三軒家西地域では策定がされておりますが、ほかの地域につきましても策定してまいりたいと思っております。こどもの未来が輝くまち「大正」につきましては、複雑で困難な課題を抱えるこどもに対して、家庭や学校以外の場である「居場所」を地域と区役所で役割分担をしながらつくってまいりたいと思っております。にぎわいと魅力あふれるまち「大正」につきましては、この10月より始めました大正トンボロマルシェや空き家を巡るまち歩きTaishoさんぽ日和を行うことでにぎわいを創出し、まちのリノベーションを図ってまいりたいと考えております。

続きまして、4つの柱を支える共通の取組について御説明をさせていただきます。まず、地域まちづくり実行委員会の活性化についてでございますが、区内10地域のまちづくり実行委員会の取組を支えてまいりたいと考えているところでございます。続きまして、地域活動の活性化でございます。地域コミュニティ育成の取組を通じまして、次の担い手を発掘することによって担い手不足解消を図ってまいりたいと考えているところでございます。なお、区民ニーズの把握、情報発信・伝達力の強化、ICT化推進による区民サービスの向上、区役所職員のスキル向上につきましては、内部事務に関する内容となっておりますので、詳細な説明は割愛をさせていただきます。

概要版の説明については以上でございます。

続きまして、冊子のほうの構成について御説明をいたします。書類番号1、大正区

将来ビジョン2025（素案）をお手元に御用意ください。よろしいでしょうか。こちらの冊子なんですけども、45ページと非常にボリュームのある冊子になっておりますが、まず、5ページから11ページにかけましては、このビジョンの計画の位置づけでありますとか大正区の概要、そして、大正区の人口に係る資料と、今回ビジョンを策定するに当たりましての基本的方向性について掲載をしております。そして、12ページ以降から44ページまでが、4つの柱と4つの柱を支える共通の取組の各論を掲載しているところでございます。具体的に申しますと、12ページから20ページまでは健康で安心して暮らせるまち「大正」について、21ページから26ページが地域で支えあう安全なまち「大正」について、27ページから30ページがこどもの未来が輝くまち「大正」について、31ページから35ページがにぎわいと魅力あふれるまち「大正」について、36ページから44ページが4つの柱を支える共通の取組についての各論を掲載しております。

それでは、この冊子の具体例を一つだけ御説明させていただきます。冊子の27ページを御覧いただければと思います。例えば、3つ目の柱でありますこどもの未来が輝くまち「大正」を実現するためには、安心して子育てできる環境づくりが必要であると考えております。安心して子育てできる環境づくりを実現するためには、まず大正区の現状と課題を把握する必要があるとございます。そこで、まず、アというところで、大正区の現状と課題のほうを掲載しております。真ん中よりちょっと下のところ、イというところで、その課題を踏まえて、3年後にめざすべき将来像はどういう状態なのかというところをイのめざすべき将来像のところに記載をしております。その下のウ、施策につきましては、その将来像を達成するためにどのような施策を行うかを掲載しております。

28ページに行きまして、エの施策目標でございますが、施策を行うに当たりまして、その成果の目標、つまり、こういった状態をめざすのかということを記載しております。その下、オの主な事業・業務計画につきましては、具体的にどのような事業

や業務を行うのかを記載しているところでございます。ほかの柱につきましても同じような流れで作成をしております。

冊子の説明は以上になります。

この大正区将来ビジョン2025（素案）につきましては、広く市民の皆様から御意見をいただくために、11月15日から12月14日の1か月間、パブリックコメントというのを実施いたしまして、2件の御意見をいただいております。内容につきましては、まちの活性化に関する御意見でございまして、2件とも交通インフラ、いわゆる電車の整備が必要ではないかという御意見をいただいたところでございます。なお、この意見に対する回答につきましては、これから検討してまいりたいと考えているところでございます。

本日はこの大正区将来ビジョン2025（素案）につきまして委員の皆様から様々な御意見をいただければありがたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。説明は以上になります。

○竹村議長

ただいまの区役所からの説明がありました、大正区将来ビジョン2025につきまして、皆様から事前にいただいた質問、御意見を含めて議論を進めたいと思います。何か質問、御意見ございませんか。

○角元委員

大正区将来ビジョン2025（素案）の概要版のめざすべき将来像というところですが、人や文化が多様性に富みというところがあるんですけども、この将来ビジョンのこの素案を見ての限り、外国人に対してどのような対策を取るんかというのが少し見えないような気がしたので、人や文化が多様性に富むということは、将来的に海外から来られた方も居住されるということを想定して書かれてると思うんですけども、健康で安心して暮らせるまち「大正」は、日本人だけではなくて他から、海外から来られた方に対しても安心して暮らせるまちをつくることを考えていかなければな

らないのではないのかなというふうに思いました。例えば、分かりやすい標識であったりとかもそうですし、やり方が分かれへん、柗さんのところが日本語学校をされているので、どんどん大正区でも日本の方じゃないなという方を見られることが多くなったので、そういうところもこの将来ビジョンの中に取り入れていただきたいなというふうに思っております。以上です。

○竹村議長

ただいまの意見につきまして、区役所から説明を、回答をお願いします。

○角元委員

柗さんところの外国人の方は多分大正とか近隣に住まれていると思うんですけど、海外から来られた方は、大正区についてどういうふうに言われていますか。

○柗委員

大正区についてといいますか、日本になんですけれども、やはり住み慣れない国であるので、まず日本の文化の習慣とかとつつきにくい、初めは慣れない生活で苦しんでいるところはあるんですけども、だんだん住み慣れてきまして順応してくるんですけども、最近ちょっとうちの学生で、ここ10月末から11月ぐらいにかけて交通事故が多くて、やっぱり国の生活の交通状況と日本の交通というのが全然違うみたいで、やっぱり事故を起こしてしまうと。そこら辺、大正区では結構自転車を使われることが多くって、それも結構道が細かったりとか標識がなくて、例えば高速のところでね、入ってはいけない車専用の道に入ってしまったたりとか、そういったこともありまして、事故を起こしてしまうといったこともあります。あと、駅前の駐禁のところでね、あそこも全然、一応指導はするんですけども、駐禁のそこへ間違っって置いてしまったたりとか、そういったことがあるので、また駐輪場とかも増えたらいいなというところは、私の実感であります。

○南委員

南です。まず、すみません、事前質問をできなかったことを申し訳ないと思ってま

す。すみませんでした。

僕は、つい2週間ほど前に港区さんと生野区長のフォーラムみたいなやつを聞かせてもらってきまして、そこでは両区長とも明確に人口を増やすには外国人を積極的に引き入れていくっていう方向性を出してはりました。今、角元さんがおっしゃったように、やさしい日本語の標識をつけるであったりとか、外国人でも分かるようなそういう工夫をいろんなところでしていこうというところで、積極的に、もうこのまま日本人は絶対増えないっていうところで、もう完全に考えを切り替えて増やしていこうとしていましたけど、その点、大正区はどう考えているのかなっていうところを聞かせていただければありがたいです。

○古川区長

3人の委員の方、本当にありがとうございます。意外なところから入りましたね。外国人対応及び外国人の人口増等に関しては、今回のビジョンでは実はあんまり触れていません。ただ、最後の南さんのお話にあるように、将来人口ということを真剣に考えた場合、大正区にかかわらず、我が国日本はこのまんま放置してると人口が減少して、国自体がシュリンクしていくと、いわゆる萎縮していくような状態、これは誰の目にも明らかなので、ある意味方向転換を、だったら外国人を呼んでしまおうというふうに舵を切ることも確かに施策の一つなのかもしれません。まだそこまで踏み込んだ検討が大正区内ではできておりません。移民とか、この国の門戸の開き方、それによっても影響がかなり違うということ、特に大正区はものづくり企業さん、いっぱいいらっしゃいますので、外国人労働者がどのような形で定着していくかという我が国の施策も見ながら検討してまいりたいと思います。最初のお話にありました外国人に優しいまちかどうかということも含めまして、角元さんのお話もありました。これ、多様性に富んだ大正区というのは、にわかに外国人だけを指したのではなく、沖縄、九州等から移住してきたルーツを持つ方々も含めての言い方になっております。ただ、外国人という意味でも共通でございますので、その方々にやさしい日本語を使い、多

言語で窓口対応するとか、できることはやっていきたいと考えております。ありがとうございます。

○竹村議長

ほかにどなたか御意見ございませんか。

○南委員

すみません、何回も。今さらの話ですけど、これ、45ページを、この時間だけで質問するのがまず無理があるよねっていうところで、しっかり議論をするんやったら、僕ら今、青年会みたいなんつくってるんで、そこでも一応話してきてますけど、もうちょっとキャッチボールできるような場を設けていただけたらもうちょっとやりやすいのかなと思いますし、こどもの未来が輝くまちについて話すところに若い女性がないっていうところが、もうその時点で誰がしゃべっとなねんみたいな話かなと。区政委員の選び方からちょっと考えないといけないところかなと。僕らも今回、すごい勉強させてもらいましたし、ここに来ないとこんなこと考えへんやろなっていうことばかりやったので、今後、僕たちも周りにもっと積極的に入れよっていう話はしていくと思うんですけど、多分僕らがやってもその若い子育て世代のお母さんというのはなかなか呼び込めないところかなと思いますので、そこら辺をどう改善していきはるかなというところが、もし考えがございましたら教えていただきたいなと思ひまして。

○大津区政企画担当課長

ありがとうございます。委員の皆様については、公募と地域団体からの推薦ということで引き受けていただいております。あと1年後に委員の改選がございます。おっしゃるように、子育て世代のお父さん、お母さんにも、ぜひこの会議にも参加していただきたいと思っております、つい最近ですが、総合教育会議という別の会議があるんですが、そちらの委員さんに、区政会議の委員に入ってくださいよと声をかけたり、PTAの方も若干、知り合いがいますので、事あるごとに声をかけたりしてい

ます。何とか次のときにはそういったことができたらいいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○竹村議長

それでは、事前に質問があった議員さん、姉川委員さん、何かございませんか。

○姉川委員

事前に質問させていただいた部分で、いつも何か言ってるんですけども、とにかく大阪市は全国的に見ても検診の受診率が特に低いというところで、医療機関勤めてる者としても、これを上げていきたいなとか思っててもなかなか難しいというのがあるんですけども、回答いただいたことで大体は納得というか、ああそうやなというのがあるんですけども、受診率何%というのを目標として掲げたときに、すこやか大阪21っていうのはあるのはもちろん知ってたんですけども、検診というか健康寿命の延伸というときに、またそのすこやか大阪21まで読まないとなんか出てこないのかっていうのがあって、まだ僕は知ってたほうかなと。ただ、ほかの区民の方とかにとっては、数字をやっぱり明確に載せとくというか、どこかに、まあ大阪21まで普通の人は読まないと思うので、そういうのも載せておけば、何か一つほかの医療機関のほうでも具体的に頑張ろうかなとか、何かそういうふうに数値、見えるんじゃないかなと思いますので、どこかに、ちなみに大阪市ではこれぐらいの受診率をめざしてますみたいなことでも書いてたらいいいのかなと思いました。

ごめんなさい、あともう一つなんですけども、ちょっと事前質問には書いてないんですけども、こどもの居場所づくりというところでふと思ったんですけど、今、僕のこどもが小学校5年生で、共働きなので学童保育に行ってるんですけども、そういや大正区って学童保育所1か所もないよねと。大阪市内で唯一ないんですかね。ちょっと分からないですけども。多分ないところって大正区だけか、あとどっかちょっと分からない。学童保育所ってもちろん民設民営で、大阪市の留守家庭事業というところで大阪市から補助金もらってやるっていうのがやり方だと。一応僕も今役員してるんで、

いろいろ大阪市さんとはやり取りさせてもらってるんですけども、基本的には独り親家庭か共働き家庭の方を対象にした事業になってるんですけども、今共働きとか独り親家庭が増えてる中で、なぜ大正区だけないのかなというのが一つ疑問になりました。もちろんこどもさんが少ないというのもあると思うんですけども、特に今、全国的にもたまにニュースになったりして、小1の壁って言って、働きたくてもこどもさん、小学校上がったら預けるところがなくてやめざるを得ないとか、パートになったりとかっていう、なかなかそういう難しいところがあるっていうのはよく知られてると思うんですけども、大阪市はいきいき事業があるのはあるんですけども、預かってもらってる親の実感としては、いきいきと学童保育って全然違うものだと思うんです。それは一長一短があるのでどちらがいいとは言えないんですけども、子育てする場所、学童保育なんか特にやっぱりこどもたちの放課後の居場所になってますので、なかなか大阪市の事業なので区が何か独自でできるっていうのは難しいのかもしれないですけど、もしそういうことが何かできるのであれば、学童保育所みたいなところが増えたらまた、ああ、ここは子育てしやすいまちだなあとか、ここだったら安心してこども育てられるわってというような形になるんじゃないかなと、ちょっとふと思ったので意見させてもらいました。ありがとうございます。

○古川区長

1点目のほうは私のほうから。担当課長の保健福祉のほうからの回答はこのとおりでございます。書いてあるとおりなんですけど、確かにもうちょっと見える化したほうが効果があるんじゃないかというお話なんだと思います。その点につきましては、広報で去年からトライアルをしているのは、やはり大正区は数値低いよっていうのをあえて出すとか、このままだとかうなってしまうよみたいな健康上のある程度想定されている行く末というか、そういうのも少しリアルに出して、危機感をあおるまではいきませんが、少し課題認識を区民の方に持っていただくという広報には努めています。なので、この回答に書いてあるような具体の方向性に加えて、皆様に数値の

深刻さを分かっていただくような見える化をこれからも続けたいと思っています。

いきいき事業等については、じゃあ大津さん。

○大津区政企画担当課長

学童保育については、ちょっと御存じかどうかなんですけど、実は1か所だけあったんです。僕が教育担当をやっているときには、実は1か所だけあったんです。

○姉川委員

今はないですね。

○大津区政企画担当課長

ですので、今おっしゃられたように、いきいきだけしかやってない状況になっております。もしそういった学童保育のお話がまたあるようでしたら、お聞きしてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○竹村議長

ただいま金城委員がお見えになりましたんで。

角元委員さん、何か。

○角元委員

先ほど、柊委員が少しおっしゃった部分があるんですけども、大正区内のインフラに近いんですけども、基本的には電車というよりはバスのまちでして、主に交通の手段というのはバスか歩きか自転車、自転車に乗ってる人が非常に多いです。もちろん大正区の駅前のところには地下鉄のところに駐輪場があったりとか、その付近にも駐輪場があるんですけど、特に駅前とかは人が自転車専用道路を塞いで歩いたりとか、路駐もそうなんですけども、ちょっと自転車のルールっていうのをもうちょっとまちで取り組むような仕組みというのは必要なんじゃないかなというふうに思いました。それは外国人が来られて事故したっていうことが数件あったっていうこともありますし、私自身もヒヤリ・ハットという形で、交差点、十字路入ったときに歩いている方とぶつかるとか、自転車とぶつかるとか、逆に僕が歩いているときに急激なロードバイクのよ

うな自転車でひかれそうになったりってということがあったので、その危険をちょっと排除するという取組ってというのは必要なんじゃないかなというふうに思いました。以上です。

○中務防災防犯担当課長

すみません、防災担当の中務でございます。先ほども大正駅前ですね、放置自転車の例えば禁止区域になつとるんですけども、例えばその禁止を示す看板ですね、それも日本語でしか多分書かれていないのかなということもありますので、一応道路管理者である建設局ですね、そちらのほうにそういう外国人の方でもこれから分かるような表示の仕方っていうのをまた御意見いただきましたので、建設局のほうに申し伝えたいというふうに思います。

それと、交通ルールの関係なんですけども、そちらも警察さんとタイアップしながら前向きに考えていきたいなと思いますので、またよろしくお願いします。

○竹村議長

今の説明でよろしいですか。

○角元委員

はい。

○竹村議長

土井委員さん、何かありませんか。

○土井委員

土井です。質問、書き忘れたなあ思ってたんですけども、こどもの「居場所」っていうのがちょっとピンと来なくて、姉川さんが言ってたように、ああ、学童のことやったんかっていうのを思ったんですけど、本当にちょっと区が先導してこどもの「居場所」をつくるみたいな、どんなことをしてんねやろみたいなんがちょっとピンと来なかったんで、その現状とあるべき姿みたいな、もう少し分かりやすい形で教えてもらいたいなと思いました。以上です。

○前田こども・教育担当課長

御意見ありがとうございます。私、こども・教育担当課長をしております前田と申します。

まず、こどもの「居場所」につきましては、この将来ビジョンの中の29ページにも一部記載させていただいております。まず、「居場所」につきましては、いろいろ居場所の定義というのは決まったものはないんですけども、例えばよく言われるのがこども食堂とか、あとはいわゆる学習とか宿題とかするような、大正区ではよく宿題カフェとかいうような名前でやられてるところもございます。今、大正区のこどもの「居場所」の現状につきましては、区役所と区社会福祉協議会と共有する箇所数というのは、今小学校区10校区あるんですけども、大体その中で6か所ございます。ただ、実際には各地域でいろいろな形でこどもの「居場所」を実際にされてるところもございますので、正確な数字というのは把握はしておりません。で、今日来ていただいております姉川委員につきましても、大正区のこども食堂という形でこの夏ぐらいからやっていただいております。直近でいうとまた12月22日もこどもの食堂を開催するようなことをお聞きしています。現在ではそういった形で大正区の中で地域でもいろいろと宿題カフェとかそういう、あとこども食堂的なところがございます。

大正区としてめざすべき部分なんですけども、こどもの「居場所」っていうところは、いわゆる我々が今考えているのは地域でこどもを見守り支援することができるのでないかということで、そういう居場所づくりを地域でつくっていただくに当たって、区としては直接「居場所」をつくることでなくて、そういった地域で「居場所」を支援する、やっていきたいという声があったときに情報提供したりとか、「居場所」に係る費用について助成金があるよとか、そういった情報を提供しながら支援していきたいと考えております。

もう一つは、将来ビジョンにも記載している内容については、今、区役所のほうでこどもサポートネット事業というのを実施しております。これはいわゆる小学校、中

学校で課題のある児童生徒についてそういった方を、区役所、そして地域の方々と話して、そういった方々について支援をするような事業がございます。それと一緒に、大正区独自で学習・登校サポート事業というのをやっております。こどもサポートネット事業で対象となった課題のあるこどもたちについて、学習が遅れているような方について学習の支援とか登校の支援をする事業でございますが、その中に、これまでそういった支援につながらないような方もおられます。例えば不登校、今、不登校というのは増加傾向にございまして、大阪市についても、全国的にも多いという傾向がございます。そして、数値には示しておりませんが、大正区におきましてもやはり不登校の方が多傾向がありますので、そういった、不登校になると支援につなぐににくい方もおられますので、そういった支援につながるように、まだ予算の編成過程でございますが、学習・登校サポート事業の中に、大正区のほうで大正区役所の中に一定「居場所」を提供してみようと。そういった「居場所」で支援をしていきたいと考えておりまして、一つは地域でこどもを見守り支援するような体制を支援するのと、一つは行政としてもそういった課題を抱えるような方々について支援するような「居場所」をめざしながらやっていきたいというのを今回ビジョンに示させていただいております。以上でございます。

○村田副区長

具体的な中身についてはそういうことなんですけども、「地域で居場所」と言いますが、「居場所」って1つじゃなくてもいいと思っています。

箱物があって、そこに誰かが居てずっとこどもを見てる、そういう居場所だけが「居場所」なんだろうかとということを我々はずっと考えておりまして、地域全体が「居場所」でもいいじゃないのと。

餅つきやったり、運動会、何かお遊びのビバフェスタみたいな、小学校で行事をやったり、それから、こどもたちにお菓子を配ってあげるイベントをしたりとか、そういう地域でみんな見てる三軒家西さん、そういうところもございます。

地域が「居場所」であると。それから、宿題カフェっていうように、これは泉尾東地域なんですけれども、月に何回か地域の女性方がこどもたち集めて宿題をしてもらって、勉強してもうて、それ終わった後にはお楽しみの御飯があったり、あるいはゲーム大会やったりとか、そういう「居場所」もあります。

だから、ほかでいいますと、例えばICTクラブって御存じですかね。そういうプログラミングのことを教えてあげるような場所をつくったりとか、先日の総合教育会議で、とある地域のPTAさんがボードゲームしたい人、みんな集まってこいみたいな、そんなところをつくってみたいとか、新しく地域の福社会館建て替わるから、建て替わったらそこで誰かがいつもおって何か適当に茶飲んでお菓子食べてたらいいいじゃないとか、そういうところも考えたり、いろんな形態の「居場所」が10地域あったら10地域あってもいいですし、それから、10地域以外でもその地域っていうものを、別に地域のまちづくり実行委員会さん、社協さんだけじゃなしに、姉川委員のところのような、そういうところも、いろんなところがこどもたちを地域で見てる。

ああ、あのおっちゃん知ってるよと、こないだお菓子もらったよね、そういう関係づくりっていうのができたらなと。

それが我々が今考えてるめざすべき「居場所」ですので、実は29ページに書いてる施策のこどもサポートネットワーク事業どうのこうのって書いてますけど、家庭・学校以外の場である「居場所」って、これ、括弧ついてるんですよ。普通名詞としないでかぎ括弧して、固有名詞としての使用ということで、区役所内で議論して、このようになったんです。

こういったようにいろんな「居場所」があっていいよねということを考えていきたいなと思ってます。

それと、先ほど言いました不登校のこどもたちを見るところ、学校もしんどいよねと、家もしんどいよね、それなら区役所に来たらいいじゃないかと、そういうところ

もつくっていききたいなというふうに考えています。

その両建てですね、不登校でちょっと困ってる、いろいろと悩みを抱えてることもたちが地域で人間関係をつくるための場所、そういうところとの二本立てで事業をやっていききたいと思ってます。

細かく書いてないのは、今、予算要求段階ですので、事業・業務計画書に細かくどんなことをするんだということを予算が通ったらきちんと書いて出していききたいと思いますので、よろしくお願いします。

○竹村議長

地域のほうから。

仲田委員さん、何かありませんか。

○仲田委員

先ほど、こども食堂のお話が出たんですけれども、どんな感じで出されてるんでしょうか。コロナで手作りは一切できなくて、私たち老人の給食も業者さんからのお弁当を取ったのを配布してるというふうな感じになってますので、今まではずっと手作りでしたんですけれども、コロナでそういうふうなことができなくなってるんですけれども、どういう感じでなさってるんでしょうか。よその地域はそれはやめて、お菓子を配ってるとかパンを配ってるとかいうのも聞いたことがあるんですけれども、どんなふうになさってるんでしょうか。

○姉川委員

すみません、ありがとうございます。おっしゃるとおり、今は会食形式が全くできないので、寄附いただいた物品などをいつもはそれを活用して御飯つくったりしてたのを、もうそうじゃなくて、もうその物品自体をもう配布するっていう形にしています。食材だけを今大正のほうはやってるんですけれども、もう一つ、僕、もともと西区のほうでこども食堂をやってまして、そこでは食材配布プラス助成金なんかが降りたときは、言われたようなお弁当を配布したりするようにしてます。なかなかそうや

ってみんなで集まって食べることができないというのは、僕の中では「居場所」じゃないよねとはちょっと思ってるんですけども、細々と続けていって関係性つくつといて、コロナが明けたときに、ああ、ここでこども食堂をやってるんやって覚えといてもらうための今はちょっと大正のほうでは種まきなのかなと思っていますので、いつかやっぱりみんなで一緒に食べるっていうことがしたいなと思っています。

余談なんですけど、港区のほうではもうちょっとずつ何か始めてるみたいな感じを聞いてまして、僕はその港区とか特にすごいなと思うのは、やっぱり町会で御高齢の方もこどもさんも一緒に食べるっていうのがされてて、実は僕はそれが一番やりたくて、こども限定にしないで、誰もが寄れる場所っていうふうにしたくて、西区でもやってたときに区役所に訴えに行ったのが、町会さんのほうでぜひ高齢者の方と一緒にこどもさんも食べれるような形ってつくれませんかねって言ったら、ちょっとそれはみたいな、町会さんの判断なんでっていうことであれなんですけど、理想としてはすごい今、港区の田中食堂さんいったかな、田中・夕風のほうのがそうやってみんなで食べてるっていうのは、すごいいいなと思ってます。

○竹村議長

ほかに、どなたかありませんか。

鶴町の大石委員さん、何かありませんか。

○大石委員

鶴町も、こども食堂って確かにあったんです。こども食堂、このコロナの問題が起きて結局もう自然消滅っていうか、したくてもできなくなった、こどもを集めてっていうのは難しいということで、今、多分あの方もできてないのかなと思うんですけども、ただ、振興町会でそういうこども食堂に補助しようかということになると、やはり資金的な問題が出てくる。それと、あと、個人でやるために今食材の提供を受けてという、テレビなんかでもよくありますよね、余った食材をこども食堂に回そうという、そういう運動がある。ただ、あの物量から考えると、各地区のこども食堂のその

必要な食材の量とは全然かけ離れた量だと思うんですね、提供してもらえる量というのが。そうすると、こども食堂自体を持続するためには、やはり資金的な援助、補助がどこからやっぱり定期的に入ってくないと難しい。個人の寄附だけに頼ったのではなかなか難しい。そういう面もあって、多分やりたくてもちょっと一步を踏み出せないという方もいらっしゃるようには聞いているんですけどもね。ただ、どういうんでしょうね、従来と違ってのが、今のコロナの感染症の問題がいまだにやはり尾を引いてるし、もうこの週明けからだと全国的に16万、17万、昨日なんか一番多いときで19万何人が新たな感染者出てますよね。まだ専門家のほうもテレビのそういう報道のほうも、第8波という言葉はあまり、以前と違って、今は出てない。2か月、3か月ぐらい前には、8波が始まるよ、増えてくるよっていうような話がテレビなんかでもちょこちょこ報道で流れたんですけども、この1か月、第8波という言葉は耳に入らない。でも、現実には、全国で十何万人、大阪府だけでももう1万人前後の方が毎日発症出てる、死亡者も増えてる。これ、この状態がもう少し上がってくると、年明け、やはり何かの規制が出てくる可能性もある。ちょっと今の議題の内容とかけ離れた話になって申し訳ないんですけども、ただ、今現実と言うと、その対応を区役所のほうもどう考えてるのかなというのを、ちょっとお聞きしたいな思ったりはしますね。

○村田副区長

各地域の皆さん、工夫されながら、いろんな行事していただいてありがとうございます。

本当はその場で食べさせてあげたいけども、お持ち帰りという形にしたりとか、今、思い出せないのですが、とある地域では、朝のふれあい喫茶にこどもたちと一緒に御飯食べてるっていうのを、やっているかもしくは、やりかけたところがあるんですけども、このコロナで結局できなくなったと、そういうところがあります。

徐々に今、高齢者の食事サービスさんでも会食やってるところでは、お弁当にし

て、みそ汁だけは作りましようとか、ちょっとずつ復活してきてる状況かなというふうに思ってます。

今日も実を言いますと、昼間、百歳体操、平尾のほうに行ってきました。来週の月曜日は鶴町の松村委員のところへ行かせていただくのですが、百歳体操でもお年寄りの皆さんがだんだん集まってきてる状況になってますんで、ちょっとずつ行事は復活しているのかなというふうに感じているところです。

ただ、大石会長おっしゃったように、またコロナということで、ゆり戻しが来て、しんどくなってくるっていうのは、これやむを得ない状況なのかなと思っています。

もしコロナがなかったら、お金の面どうすんねんという御質問だったと思うんですけども、地域によっては社協からのお金、大阪市の社協の基金があるんですね、そういう財源を使ったりとか、それから、まちづくりのお金、2割5分、自腹切らなあかんやないかという、そういうお話がありますけれども、まちづくりのお金でされているとことか、いろいろあるかと思います。

資金面、例えばこども食堂だけじゃないですけど、「居場所」をつくったりするときの資金面というのは、いろんな方法が各地域さんであるかと思いますんで、そこについては、我々、区役所、御存じのようになかなか予算ないところなんですけども、皆さんと一緒に知恵出しながら考えていきたいなと思いますんで、よろしくお願いします。

○竹村議長

御意見、地域の中の意見ございませんか。

北川委員さん。

○北川委員

三西の北川です。三西地域におきましても、朝御飯を食べてこないで来る生徒さんがたくさんおるという形で、年に何回か知りませんが、朝、時間どおりに行つて、先、女性会とか、そういう役員の方が全部行って、とにかくみそ汁作る人はみそ

汁、係を決めて。というのは、後でもし何かあったときは、その方がどういう手順で作ったかいうことを全部調べられるように、味見する人は味見する人という形で決めて、このおかず、卵焼く人は卵焼くだけっていう形でやって、その中でお年寄りも申し込んでいただいて、一緒に朝食食べるという形のものを今までやっておりました。

それと、先ほどからちょっと自転車の話も出てきてましたけれども、私とこはこの間、先月ですかね、安全交通週間という形で、三西小学校におきまして、大正警察の指導によりまして、運動場においてこどもたちの自転車のマナーとか交通指導をしていただきまして、ありがとうございましたということなんですけれども、大正区は大正通とか、もうそういうメイン通りを一步筋へ入りますと、ほとんどのところがもう一方通行になっております。ほんで道幅も昔のままの道幅のところが大変多く、5メートル、10メートル行くと、すぐ四つ角に突き当たるというふうな状態で、私もこどもの見守り活動しておるんですけれども、その中で、ほとんどもう、前にこどもさん、後ろにこどもさんと乗せたまま、もうすぐ四つ角あるのに、スピードそのままの状態で突っ切っていくというふうな、もう本当に危ないところ、私は、まあまあ、四つ角のそこたまたま立っとなら、両方から来て、これ当たるで思ったら、片一方止めたりしてるんですけど、そういう状況が大変よく見かけられるんですね。ということで、私の思ってるんですけれども、車が、もう四つ角、前へ進んできてんの、その前、横切っていく人もおります、中には。もういろいろ、ママさんもいろいろ、共働きとかいう形ではあるんだろうと思いますけれども、学校でこどもたちに一生懸命自転車の乗り方教えてもらってるのに、親がそういうふうなことをしておったら、ちょっと考えさせられます。それという意味で、学校の実行委員会、また、各町会連合と各女性会という、そういう各場、場で、自転車の親の乗り方のマナーを指導して、いって、全体的に盛り上がっていったらいいのかなというふうにちょっと感じました。以上です。

○竹村議長

ありがとうございます。

あのね、自転車のマナー、大体警察も、この感染とかある中、あんまり。前は各地域で自転車のマナーアップいうのに、こどもたち、それから、親御さんなんかは自転車の乗り方とか指導してたんですけど、警察の場合、この感染になって、あんまり活動やりませんのでね。実際、僕が見ても、まち走っとしても、もう信号、赤でも走り、もう車が来とっても、特に大正区の43号線、中通りの信号なんか、信号が長いから、もう青になったら交差点走って、突き切って、もう一目散に走っとるから、これ危ないと思うんですけどね。ちょっとマナーが最近悪いん違うのかなと思います。

皆さん方、いろいろ委員さんの質問があると思いますが、時間の都合上、質問できなかった方はご意見シートにて提出をお願いしたいと思います。

それでは、これにて議題1を終了させていただきます。

大変貴重な意見をいただいたと考えています。本日の内容を基に、今後、大正区の将来ビジョン2025の策定に生かしていただきたいと思います。

それでは、次の議事に移らさせていただきます。

議題2、令和5年度大正区運営方針（素案）について、区役所からの説明をお願いいたします。

○大津区政企画担当課長

ありがとうございます。それでは、議題2、令和5年度大正区運営方針（素案）について御説明をいたします。

お手元に配付いたしました書類番号3、令和5年度大正区運営方針（素案）と、参考資料の運営方針についてを御準備ください。よろしいでしょうか。

先ほど議論いただきました大正区将来ビジョン2025は、これから3か年の計画を示すのに対しまして、運営方針は単年度における施策の選択と集中の全体像を示す方針といたしまして、大阪市全市的に毎年度作成しているものでございます。

今回、基本的な方針と、作成いたしました令和5年度大正区運営方針（素案）につ

いて、委員の皆様に御議論をいただきたいと考えております。

なお、今までの様式なんですけども、もうかなり情報量が多くて見にくい様式やっただんですけども、令和5年度から非常に簡単な書類番号3なんですけど、後で内容を説明いたしますが、簡単な分かりやすい様式に変更がされております。

なお、本件に係ります事前質問の回答につきましては、書類番号4の5ページで書面にて行っていることから、詳細の説明につきましては割愛をさせていただき、後ほど、この回答に対しても御意見をお伺いできればと思っております。

それでは、書類番号3、令和5年度大正区運営方針（素案）を御用意ください。

まず、上段のところなんですけども、目標という欄があるかと思います。目標という欄につきましては、大正区役所の活動によりまして、何がどうなるのか、すなわち、大正区役所がめざすべき将来像というのを示しております。その下の使命の欄でございますが、そのために大正区役所がどのような役割を担うのか、目標の実現のために大正区役所の担うべき役割を示しております。その意味で、目標と使命というのは、目的と手段の関係にあるということでございます。一般的な企業におきましては、経営戦略におきまして、目標というのは、自社のありたい姿を設定するということがあるかと思うんですけども、行政の場合は、通常は自らの姿というよりか、区民の皆様や地域がどのような状態になるかっていうのを掲げたのが目標ということになっております。その下段なんですけども、所属運営の基本的な考え方ということで、上記の使命を踏まえまして、先ほどビジョンでも出ておりました4つの柱を立てまして、また、4つの柱を支える共通の取組を行うということを記載させてもらっております。

次に、重点的に取り組む経営課題ということで、5つの経営課題を記載しております。経営課題1、1ページめくってもらいまして、経営課題2と3、その右に経営課題の4と5ということで、5つの経営課題、4つの柱と、その4つの柱を支える共通の取組ということで記載をさせてもらっております。

例えば、経営課題の1でございます、健康で安心してらせるまち「大正」を実現

するために、まず、課題認識という欄がございますが、こちらに大正区の現状と課題、そして、その課題を解決するために、どのような取組が必要かというところを記載しております。その下の主な戦略の欄につきましては、具体的にどのようなことを行っていくのかというのを記載しております。その下のアウトカム指標の欄につきましては、経営課題、この1の解決に向けた進捗の度合いを示すために、客観的にその進捗度合いが測定できるように数値化した数字で表した指標をつくりまして、それを記載しているところでございます。

なお、経営課題を5つ立てて、この解決のために全て戦略を立てておるところでございますが、全てが計画どおりに進むとは限らないこともございまして、そのためにも、成果目標、ゴールにどの程度近づいているかをチェックする必要があると考えております。その際、客観的にチェックするためには数値化というのは非常に重要で必要なものであると考えておりまして、数値化することによりまして、区民の皆様にとってもすごく、どれぐらい進んでるのかなってというのがイメージしやすくなると思っているところでございます。

以下、2番、3番、4番、5番も同じようなつくりになっているところでございます。

説明については以上になります。

○竹村議長

ただいまの区役所からの説明がありました。

令和5年度大正区運営方針につきまして、何か御質問、御意見などございませんか。

それでは、事前に質問のあった委員さん。

角元委員さん。

○角元委員

私からは、経営課題5、4つの柱を支える共通の取組ってということで地域活動の活性化ということなんですけども、区民まつりやスポーツ大会、区民ギャラリー、生涯

学習フェスティバルということなんですけど、そのスポーツ大会っていうのは主にどんな競技とかっていうのがあるんですかね。何か今までやったっていうのは、野球とかキックベースとかはあったんですけど、また新たなスポーツの取組とか、そういうのを考えているとか、そういうのを何か、具体例とかって何かあるんでしょうか。

○村田副区長

私のほうから答えさせていただきます。

スポーツ大会、これがなぜ、今回始めようかなと思ったのは、以前はファミリージョギング大会ってあったん御存じですかね。

○角元委員

はい。

○村田副区長

それから、区民ハイキングと、そういうのもありました。体を動かすイベントがあったんですけども、この間、コロナの関係や、あるいは予算の削減とか、いろいろ原因があって行えていませんでした。

今回、このスポーツ大会をやることによって、地域の担い手を掘り出すと言ったら失礼な言い方なんですけども、地域で見つけてくるということをしたらなというふうに思ってます。

といいますのは、皆さん御存じのように、この間の区民まつり、地域対抗競技がありましたよね、キャタピラーレースとか、それから、土のう積みリレーとか、そういうのがあったん皆さん御存じでしょうか。

そういうのをやったときに、すごく地域の皆さんが盛り上がった。それから、地域の皆さんだけじゃなしに、今まで我々も存じ上げなかった方が参加して、結構盛り上がったというのがありますので、そういう地域の新たな活動の担い手の掘り起こしっていうのを取り組んでいければなというふうに考えてます。

で、スポーツ大会で何するかという、委員の御質問なんですけれども、これは皆

さんと一緒に考えましょう。

もし参画していただけるのであれば、当然スポーツに関わる団体さん、あるいはこどもたちを日頃見守っていただいている団体さんなどと一緒に、実行委員会か、運営委員会か、そういうのをつくりながら、一緒に何がいいか、本気の100メートル走でもええと思うんですよ、地域対抗の。

以前行っていたリレーもいいと思いますし、大縄跳びなんかもいいと思うし。また違うことも、ひょっとしたら知恵として出てくるかもしれませんので、役所がこれやれ、あれやれ、何考えてんねんっていう、そういうことではなく、地域の皆さんと一緒に、何をしましょうかっていうのを考えていきたいなと思ってますので、よろしくお願いいたします。

○角元委員

ありがとうございます。

○古川区長

ちょっと補足があります。今、村田副区長から話していただいたのは、さっき私とスタッフとの間で話したばかりの内容なので、まだ生煮えの状態です。すみません。補足させていただくと、これを地域の皆さんに投げかけて、どういう形がいいか話合っていこうね、という話をさっきしたばかりなので、今のは情報の一端でございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○角元委員

ありがとうございます。

じゃあ、区民としての声なんですけど、たまたまね、知り合いの娘さんが実はある競技の日本代表選手なんですよ。それを知って、すごいびっくりして、何の競技ですか。聞いていたら、クリケットって言うんですよ。皆さん、クリケットって御存じですか。なかなか知り得ないマイナーな競技って言われるんですが、実は世界の競技人口第2位らしいんですよ。イギリス発祥の。野球のルーツって言われてるんですけど

も、ボールを投げて、木のバットで打つんですけども、木がすごい特徴的な形をして、今、競技用使ってる、そのバットっていうのは全部輸入の海外製品のもので、それを委員の中では、ものづくりの方が多いので作れるかって言ったら、これ大正区の、メイド・イン・大正区っていう形にして売り出したらめっちゃめっちゃ売れるんじゃないかなみたいな話になったんですよ。そういう競技人口を増やすっていうのと、このスポーツ大会っていうのを掛け合わせたら、大正区が、分かんないですけど、クリケットのまちみたいなんになれば、海外の人も生活する人も増えるし、メーカーとしても、ものづくり企業も躍起になると。そこから、そこで働きたい附属の、こういうことやりたいねっていう人が集まってくるんじゃないかなってことで、非常に盛り上がったんですけども、そういうことを、何かわくわくする場っていうのをどんどんつくっていきたいと思ってるんで、クリケットをちょっと頭の中に入れておいていただければなというふうに思ってます。すみません、ちょっと取り留めない意見で申し訳ないです。以上です。

○大津区政企画担当課長

ちょっと一つだけ。クリケットでちょっとふっと思い出したんですが、先日のものづくりフェスタのときに、土井委員のほうから、10年先のまちを元気にする発明アイデアでモルックですね、モルックを通じてまちを元気にしようっていう御提案をいただきまして、僕もそのとき全然知らなかったんですけど、今日ちょっとユーチューブを見まして、これなら誰でもできる面白い競技なんだということで、これは中の話で申し訳ないんですけども、結構盛り上がってまして、モルック部をつくろうかみたいな話も出ておりました。また、物自体も木製で、まさにものづくり企業の方でも何か作ってもらえそうやなって話もしてましたので、そういうのもできたらいいなと考えております。以上です。

○古川区長

じゃあ、ものづくりの観点からお答えに持っていきます。そういう、区を挙げてメ

ッカみたいな競技を作ることが可能になったら、先の話ですけど、ぜひものづくり企業さんが、その製品化のメッカになっていただくということで、連携しながら、大正区の知名度アップに御協力いただけたら幸いだと思いました。クリケットのバットって、相当の部分も木製ですし、それから、モルックの器具も、あれ北欧なんですよ、北欧のオリジナルの器具なので、それを国産で賄っていったら、それぞれ面白い取組になるかなと思いました。ものづくり企業様たちの発案と、それから、この競技そのものの盛り上げも併せて期待したいなと思っております。ありがとうございます。

○竹村議長

土井委員さん、何かありませんか。

○土井委員

不意打ちで。前回、御提案したときは、実現可能性何％ぐらいですかって聞いたとき、いまだに覚えてるんですけど、区長の口から３２％という答えが返ってきてたんですけど、ちょっとは上昇機運があるっていいんですかね。楽しみにしてますんで。本当にその、何だ、児童遊園の有効っていうの、今、この将来ビジョンを見ても、もう４つの、何だろうな、めざすべき将来像に合致するような形で進められるんじゃないかと改めて思ったんで、ぜひ御一考いただければと思います。それで、本当にこういう一区民の声が、区でもんでもらって実現するっていう事例をどんどん、手軽なところからつくっていくことで当事者意識みたいなのも生まれてくると思いますし、それやったら、こんな提言もしてみたいな声もどんどん集まってくるんじゃないかと思えますんで、ぜひよろしくお願いします。

○竹村議長

ありがとうございます。

姉川委員さん、何かございませんか。

○姉川委員

そうですね。ちょっと自分事というか、自分の、また、鶴町のほうで、多分、大石

委員も関わられたと思うんですけども、スーパーが1つなくなって、もう鶴町の地域、1つしかスーパーがなくなって、どうしようかっていったときに、生協さん、おおさかパルコープさんが、とくし丸じゃないけど、何ていうんですか、あれ。移動販売車、それ、出てこんで。移動販売車をこの秋から稼働することになって、どこからの発信か分からん。多分うちのほうからもパルコープさんに掛け合って、鶴町がスーパーがなくなって、移動販売されてるの知ってたので、できないかっていう、こちらからもちよつと投げかけをさせてもらったと思うんですけども、その後、何かすごいいいなと思ったのが、僕らは一民間企業、パルコープさんも一民間企業。社協さんであったり、連合長会で話し合って、そういうことに何か実現したっていうの、社会福祉協議会のお便り、お便りっていうか、何か記事でそれ見まして、それこそさっきか、課題のところにあった、官民連携じゃないですけども、いろんな団体がつながって、今回、一つの事業、事業というか、地域の資源が生まれたっていうのはすごくいいことだなと思って、これがまた、すごい一つの、大正区における成功事例の一つかなと思ってんです。移動販売車自体も、止まってる時間も、場所によってはすごい人が来たら長時間、何か止まってるみたいなんですけど、またそこが買物に来られる方の何か一つのコミュニティになりつつあるっていうのを聞いてまして、やっぱりそういうのも「居場所」の一つにもなるのかなとか思ったり、そういう色々な方たち、人と企業さんとか、行政、団体さんが、今後も何かそういうことで、一つの社会資源がまた来年度も生まれたらいいのかなと思いましたので、スポーツ大会もね、多分一つ、何かきっかけにもなるかも。人と人が出会って、初めてそういうことが生まれるのかなと思ったので、ひとつ、鶴町さんのやつは、何か大々的に何か大正区で自慢してもいいのかなと思いました。

○古川区長

その件に関しては、このあいだ松村委員から生の声を聞いたばかりですので、ちょっと解説いただければと思います。

○松村委員

こんばんは。松村です。私も、移動販売っていうのを聞いたときに、ああ、これはやっぱりおばあちゃんたちが買物行くにもね、今、本当にスーパーが、ちっさなスーパーが1つだけで、私たちも本当にどこかにそういうスーパーができたらいいなと思って、そういう話をしようと思ってましたら、移動販売っていうのができるっていうか、ふれあいセンターの方が、やっぱりそういう困ってるいう声を聞いて、地域に持ってきて、そんな話をしたときに、私も会議に出たんですけども、これはありがたいなと思いました。それで、私も初めて、先日、近くにちょうど時間帯が合ったので行ったんですけど、寒い日だったんですけどね、結構おばあちゃんも来て、それで、やっぱりコミュニケーションって本当に、今はね、本当に住宅でも顔を合わすっていうことがないので、「元気だった」とか、そういう声もかけることができて、これはコミュニケーションとか、それこそ人との交流が今ないので、ありがたいなと思いました。それで、やっぱり人の、行ったこともないからって言って、声かけあって行くっていうこともできるので、寒くても出てこようとする意欲っていうか、やっぱりそれも健康につながるなと思いました。そういうことで、やっぱり地域のつながりということが大事っていうことも知ることもできましたし、皆さんにも一応声をかけあって、そういうことは広めて、やっぱり居場所づくりとか、色々交流を持つっていうことが一番健康にもつながることかなと思っています。本当にありがたく思っています。以上です。

○竹村議長

ありがとうございます。

終委員さん、何かございませんか。

○終委員

先ほど、角元委員からスポーツ大会についてお話があって、クリケットの話が出てきたんですけども、私、日本語学校に勤めておりまして、中には留学生が、バングラ

デシュとか、パキスタンとか、ネパールとかから来てるんですけども、その学生たちに聞くと、何かチームをつくって、そこの公園でクリケットをして遊んでるとか、週末になったらチームつくって、本当は11人なんですけども、五、六人でも集まってやってると。中には、話を聞くと、国でプロでやっていたと、友達もプロのクリケット選手やってたというのがいて、何かこういう人材がいるのであれば、国際交流なんかできないかなと思ったりしました。あと、このスポーツとか音楽って人を何かすごくつなげる、すごく魅力のあるものだと思っていまして、あと、うち、今日冬休み前で、終業式でクリスマスパーティー、簡単なものなんですけど、やったんですけども、音楽を流していると、いつの間にか学生、国籍を問わず、輪になって踊り出して、いつの間にか一つになって踊ってるということがあって、何かそういうきっかけがあれば、こういう、大正区で国を越えて、何かつながりができたらなと思います。以上です。

○竹村議長

ありがとうございます。

南委員さん、何かございませんか。

○南委員

経営課題4のところで、空き家の問題とか、産業を盛り上げようぜっていうところやと思うんですけど、その指標がほんまに地価でいいのかなと思いついてたんですけど、ほかに何かこれ指標ないんですかね。そんなすぐ、土地が上がらんやろうし、逆に盛り上がってきて土地が上がったら、僕らは逆にやりにくくなったりするんで。どちらかというと地価は上がってほしくないなと思いついて。これ、何かほかに指標ないんですかねっていう質問です。すみません。

○村田副区長

我々はまちのリノベーションって進めていこうと思いついていますが、やはりまちの活性化っていうのは、その結果まちの価値が上がるということと思いついてます。

価値が上がるということは、やはりそれは地価につながってくるのではないかと
いうふうに考えておりますので、今回こういう指標を設定させていただきました。

指標として、また違う、人口いうのもあるかと思うんですけども、最初に区長が
申し上げたとおり、日本国中、人口が減ってきている状況のなかで、人口が本当にい
いのだろうかということもございます。

それから、あと、数字的には考えられますのが、税収っていうのもございます。
将来ビジョンの中では税収について、取り上げさせていただいてますが、U字でちょ
っと上がってきてるんです。

何でそうなってるかというのは、いろんな状況があって、我々まだ分析しきれて
ないんですけども、そういうのもあるかなと思う中で、ちょっと税金いうのも生々し
いし、まだ我々も分析できてない中ですので、今回は地価と考えております。

○南委員

ありがとうございます。

いや、最初にこの話のときに、前々回ぐらいに副区長が、人口の話だけやない、魅
力を上げなあかんねやって、魅力があったらええんやっていうすごい意見を言っては
ったんで、その魅力の測り方が、えっ、地価なのっていうのに、すごく今、何か違和
感を覚える質問でした。何かそういう魅力が上がったかどうかを見る指標っていう
のも考えていたらなと思いますが、ちょっとあんまりピンとこないなと思って見て
ました。ありがとうございます。

○竹村議長

時間にちょっと限りありますんで、発言できなかった方、ご意見シートにて、また
提出をお願いしたいと思います。

それでは、これを持ちまして、議題2を終了させていただきます。

本日も大変貴重な御意見をいただいたと考えます。これらの意見を基に、運営方針
の策定に生かしていただきたいと思います。

その他の事項について、区役所から何かありますか。

○大津区政企画担当課長

ありがとうございます。議題１の大正区将来ビジョン２０２５（素案）と大正区運営方針（素案）につきましては、本日いただきました御意見も踏まえまして、また次の区政会議で案ということでお示しさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、続きまして、議題外で、委員の皆様より御意見をいただいておりますので、ここで御報告をさせていただきます。

書類番号４、区政会議委員からの事前質問・意見に対する回答を、お手元に御用意ください。よろしいでしょうか。

それでは、すみません、６ページのほうを御覧いただければと思います。６ページ、角元委員より御意見でございます。

紙ベースを徐々にデータ化する取組は必要なことだと思いますという御意見をいただいております。御意見ありがとうございます。現在も、主に内部書類につきましてはペーパーレス化のほうを進めているところでございますが、今後は内外を問わずに、ＳＤＧｓの観点というところからも、可能な限り、さらなるペーパーレス化に取り組んでまいります。さらに、業務のオンライン化も進めてまいりたいと思っております。区民の皆様がデジタル機械とか、デジタルサービスを体験しまして、利便性を、あっ、これ便利やなというのを実感できる支援体制を充実させることで、ＩＣＴリテラシー、パソコンやスマートフォン等を活用する能力のことなんですけども、の向上をめざしてまいりたいと考えているところでございます。

続きまして、７ページを御覧ください。こちら角元委員のほうから御意見をいただいております。会議内容も見える化されてると思いますが、より認知されるために何をすべきかという挑戦を持ちながら全員で取り組まないとなかなか進まないの、会議始まりにマインドフルネスですかね、瞑想ですか、余計な考えから離れ、心を今

に向けた状態のことということでしたが、会議始まりでも、マインドフルネスをすれば集中できると思いますという御意見をいただいておりますが、竹村議長、いかがでしょうか。

○竹村議長

これね、マインドフルネスいうて、僕らはもう年いっとるから、横文字ちょっと弱いんやけど、ちょっと調べたら、瞑想だか、座禅とか、そういう、心を静かにして、皆さんが会合に関して一体となって、心を静かにして、皆さんで会合したらどうかいうことですけど、皆さんどう思いますか。全員がなかなか、心が一体になって、心を静めて会合できるようなあれになりますか。ここでやるのであれば、これ、会議の前にちょっとやったらどうかな思うんですけど。

大石委員、どう思いますか。

○大石委員

それは振らないでくださいよ。

○南委員

角元さん、まず、これどれぐらいの時間とるんですか。

○角元委員

基本的に1分。

○南委員

1分やったらやってもいいかな。

○角元委員

30秒から1分くらいですね。

○南委員

それ以上長いのは要らないです。

○角元委員

結構やり始めてます。何か落ち着かせるっていうか、着いたばかりで、ワタワタ

してるところからいきなり始めるっていうよりは、一旦リセットして、さあ、始めましょうって言ったほうが、話は、会話はキャッチボールやりやすいっていうのはあるなっていうのは実感してあるので、どうかなと思ったんですけど、あくまでもこの会議でやりましょうっていうのは、ちょっと違うと思うんで、あくまで一つの意見として出させていただいたっていうことですね。なので、いや、次からやりましょうっていうわけではないので、もうこの回答、横棒一本でちょっと傷ついてる部分が。

○竹村議長

僕も横文字はちょっとうといからね、スマホで調べたら、まあ、精神的なあれもあるみたいなことも書いておるから、害になるやつもあるみたいなこと書いとるから、どうかな思ってたんよね。

○角元委員

いや、やられる方は、会議前にされたらどうでしょうか。以上です。

○大津区政企画担当課長

ありがとうございました。

続きまして、土井委員からの御意見なんですけども、トンボロマルシェのほうに、10月、11月と参加していただいたということで、ありがとうございます。すごく楽しめたということで御意見をいただいております。ただ、製造業者として何らかの形で参画したいという反面、これからちょっと寒くなってきますので、防寒対策が課題だと思ってるという御意見でございます。あと、他区からの出店も多いように感じられて、少し寂しかったけども、他区からの集客にもつながるものではないかという御意見。あと、最後に、この月1回のにぎわいが、住民やプレイヤーの増加によって恒常的なものになるように期待していますという御意見をいただきました。ありがとうございます。

回答につきましては、第1回目のトンボロマルシェが約2,300人、第2回目が約2,800人と、非常に多数の方に大正区内外からお越しをいただいたところでご

ざいます。また、アンケートの結果、9割の方から大正区に魅力を感じるという肯定的な評価もいただいているところでございます。今回の取組は、区内にある日々の暮らしを豊かにしてくれる店舗を紹介することで、訪れた方に大正区のまちのよさを感じてもらうとともに、他区の方から出店される方も、大正区がマーケットとして有望であるということを認識して、商いの可能性を見いだしてもらおうということで実施しているものでございます。なお、防寒対策なんですけども、これからの防寒対策及び、今のところ2回ともすごく天気がよかったんですが、雨天等の対策、対応につきましては、千島公園の使用条件、たき火等は条例等でできないということになっており、難しいところもございますけども、いろんな工夫を考えながらやっていきたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

回答のほうは以上になります。

○竹村議長

今の役所の説明につきまして、何か御意見ございませんか。

この前ね、トンボロマルシェに、僕も2回目にちょっと行ったんですよ、びっくりしたんです。若い人がたくさんお見えになって、これはええことやな思ってね、地域の皆さん方、また、北川委員さんは来てはったんですけどね、結構若い人らがたくさんいましたよ。

○南委員

トンボロ、すみません、12月出店しますので、ぜひ皆さん来てください。

○角元委員

何。

○南委員

うちの嫁がサンドイッチを出しますので。10月、11月行って、すごい、めっちゃいいって、私も出したって言って応募したら合格したって、何も裏から手回してないですからね。普通に申し込んでやらせてもらえることになったので、ぜひ皆さん

来ていただけたら、サンドイッチ買ってください。以上です。

○角元委員

100円。

○南委員

何でやねん。

それだけ魅力を感じてるという。

○竹村議長

ほかにどなたか御意見ございませんか。

この意見も、また発言できなかった方、ご意見シートにまた提出をお願いしたいと思います。

それでは、本日予定されている議題は以上で終了させていただきます。

議事進行に御協力いただき、誠にありがとうございます。

皆様には、健やかですばらしい新年をお迎えになることを祈願いたします。

それでは、議長を下ろさせていただきます。

○大津区政企画担当課長

竹村議長、どうもありがとうございました。皆様もどうもありがとうございました。

それでは、最後、本日の配付資料の中に、今、議長からもありましたご意見シートがございますので、本日の会議で御発言できなかったことや、本日の議論を踏まえて、改めて御意見や御質問がございましたら、御記入の上、12月の26日の月曜日までに御提出をお願いいたします。

すみません、それでは、ここで最後に、マイナンバーカードの出張申請につきましてお知らせがございますので、窓口サービス課長の橋本より御説明をさせていただきます。

○橋本窓口サービス課長

窓口サービス課長の橋本です。よろしくお願いいたします。お手元に置いておりま

す、この黄色いチラシをちょっと御覧いただきたいんですけども。今、大阪市のほうではマイナンバーカードの出張申請窓口というのを設けておりまして、これ、何かと申しますと、普通の申請、マイナンバーカードを申請しようと思うと、自分で写真をお金払って撮って、それを申請用紙に書いて、貼って、送って、あと、カードができたなら区役所に取りに来るというふうな流れなんですけども、この出張申請窓口は写真撮影を無料で行っております。申請用紙もその場で書きまして、暗証番号とかもその場で、これにしておいてというふうな番号があれば、それを書くと、カードができましたら御自宅へ郵送するということで、わざわざ区役所に取りに行く必要がないというふうな窓口となっております。12月中にマイナンバーカードを申請しないとマイナポイントをもらえないというふうなことになっておりますので、もし周りの方で、マイナンバーカードをまだ取ってないというふうな方があれば、こういった窓口もありますので、御案内していただければと思います。あとは、特に、すみません、紙にはないんですけど、あと、区役所にもマイナンバーカードを申請されて、取りに来られてない方が何百人といらっしゃいます。ですんで、もし周りに、申請したけど取りに行っていないというふうな方がいてれば、また、取りに来るのに、都度、紙とかが要りますんで、区役所のほうに問い合わせいただければ、窓口サービス課の住民登録のほうに問い合わせいただければ、その辺、御案内させていただきますので、併せてよろしく願いいたします。

○大津区政企画担当課長

ありがとうございます。

それでは、本会議の結びに当たりまして、区長の古川より御挨拶を申し上げます。

○古川区長

いつも御挨拶だけでなく、今日の議論を振り返って、皆様の御意見を再解説というか取り上げながら、さらにお答えしたりしてるんですけど、ちょっと時間も押しておりますので、かいつまんでの総括とさせていただきます。

まず、本日の議論、角元委員が口火を切っていただいた外国人の話がいろんな御意見をいただきました。例えば、外国人に優しい大正区っていうのが、多様性のあるべき姿なんじゃないかという視点。それから、最後面白かったですね、外国のみなさん、公園でクリケットをしていたとか、音楽流すだけで自然と集まっていると。この辺も、やはり外国人ならではの陽気さとか、あるいは、裏返せば寂しさとかをいろいろ示唆いただいた話だと思います。

まとめると、多分、多様性を大事にするまちであれば、大正区が、日本人の方も含めて垣根が低くなるのかなというふうに拝聴しました。外国人との垣根が低ければ、外国人の方も居心地がよいと。それがまた口コミで広がって、大正区を住むまちとして選択していただけるということもあるのかなって、ふと思いました。なので、最初に御提案があったように、人口も増えるのではないかという話、南さんの御提案にもつながるのかなと、示唆に富んだ話だなというふうに拝聴いたしました。この辺をセットで、これからも引き続き考えていきたいと思いますし、それから、ビジョンの中に外国人の対応を、最初のところあたりで触れておこうと思いました。修正をしてみたいと思います。ありがとうございます。

それから、意外にも多かった御意見が自転車のマナー。自転車のマナー、私も東京から来たんですけれども、東京よりさらに大正区は疾走してますよね、自転車が。疾走してます。これはなぜかという、東京にいと分かるんですけど、道があんなに広くないんですよ、東京は。路地一本入ると狭いってお話、北川委員からもありましたけど、少なくとも大正通のあの広さっていうのは、目を見張る広さですね、東京の者からするとですね。やはりそれは再開発をしっかりとった大正区の成果なんですけど、その分、自転車が疾走しています。なので、皆さんがおっしゃるように、このマナー啓発というのが、多分これから大事になってくると思うんですが、このビジョンの中ではなかなか触れにくいのですが、一つきっかけがあります。道路交通法が改正になってます、今年の4月に。ヘルメットが義務化されるんですよ。大人もヘルメッ

トかぶらなきゃいけない、これ努力義務化なんですけど、1年以内に施行ということなので、今年4月に成立してるので、来年の4月には「大人もヘルメットかぶりましょう」キャンペーンを、多分、警察さんがやり始めると思います。この辺の流れをつかんで、我々と大正警察さんと一緒に工夫して、マナー啓発もやっていければなと、ふと思ったところでございます。

その他、例えば「居場所」のイメージが湧かない、という土井委員、まさにそうかと思います。今日、縷々長い時間かけて御説明しましたが、「居場所」って、私ども、役所の者が説明しようとしても、あんな長い説明になってしまうということで、ちょっと御容赦いただきたい。正解がないんです。だけど、副区長が言ったように、地域こそが「居場所」というふうに感じていらっしゃる地域がたくさんあるのが大正区の強みですので、地域を挙げて守っていくと。それから、区役所に何らかの個別の場所が必要という場合は、それも利用してくださいと、その2本立てでいこうと考えております。

その他いろいろ申し上げたいことはあるんですが、時間でございますので、今日はこの辺にしたいと思います。

今年最後の区政会議、皆さん、長時間ありがとうございました。お疲れさまでございます。

○大津区政企画担当課長

では、これをもちまして本日の区政会議を閉会とさせていただきます。

次回の区政会議は、来年2月16日木曜日の18時30分より、場所は同じく大正区民ホールにて開催予定となっておりますので、御出席のほど、どうぞよろしくお願いをいたします。

本日は、遅くまで誠にありがとうございました。では、これにて終了いたします。